

### 活用事例



#### JA 紹介

『JAきたみらい』は、北海道のオホーツク管内常呂ブロック8JA (JA温根湯・JA留根湯・JA置戸・JA訓子府・JA相内・JA上常呂・JA北見市・JA端野) が平成15年2月1日に合併して誕生した農業協同組合です。

『きたみらい』とは、常呂ブロック8JA組合員の基盤たる北見盆地の輝かしい未来を祈念し、「北見(きたみ)」と「未来(みらい)」をあわせ、『きたみらい』と名づけられました。

西方には、大雪山国立公園旭岳、南方には、阿寒国立公園雄阿寒岳を主峰に仰ぐ、北見盆地の中にあつて、大雪山系を源とする常呂川と、その支流無加川が横断する肥沃な大地を生産基盤としております。そのため、北海道における農畜産物の大半が生産されており、とりわけ玉葱は、全国一の産地としての地位を確立しています。

#### 職員 紹介

営農支援システムはJAきたみらい、情報センターの合同プロジェクトチームを発足させて頂き、開発に至った経過にあります。その時のプロジェクトチームに参加して頂きました組合員ふれあい室 伊藤室長、ふれあい相談東グループ 森主幹、ふれあい相談南グループ 畠山主幹の御三方にJAきたみらいにおける活用事例のお話をお伺いしました。



組合員ふれあい室  
伊藤室長



ふれあい相談東グループ  
森主幹



ふれあい相談南グループ  
畠山主幹

#### 導入背景

### 『出向く営農』への取り組み

組合員ふれあい室では『出向く営農』をテーマに日々、組合員対応を行っています。営農指導には圃場情報、農薬・肥料・病虫害情報、生産履歴、土壌分析など様々な知識・情報が必要になります。経験を積んだ職員であれば知識を持っており、組合員対応を行うことができますが、総合事業を営むJAにおいて人事異動は転職のようなものになります。しかし、経験・知識の有無に関係なく、組合員にとっては同じJA職員です。組合員はどの職員が担当だとしても同じサービスを受けたいと考えており、それがJAに求められています。経験・知識のない部分

をカバーできるそんなツールがJAにとって必須でした。

人だけではなくシステム面でも様々なメーカーのシステムを利用しており、各部署が縦割となり情報を管理していました。そのため1つの事を調べるのに組合員ふれあい室だけではなく、複数部署の作業が発生していました。また将来的にJA職員が減少し、より少ない職員数で今までと同じエリアをカバーする時代がくる懸念を抱えています。

そのような課題を解決することができ、組合員にインパクトを与えるツールが欲しいと考えていました。

#### JAが求めたこと

### 利用シーンに沿ったシステム

システムに求めたものは営農指導・組合員対応におけるシーンを想定してそれぞれのシーンに沿った情報が見ることができ、それらの情報に繋がりがあることです。また組合員ふれあい室の目線だけではなく、各部署がシステム利用できるように購買

部や販売企画部などの各部署からプロジェクトメンバーを選出し、様々な利用シーンを想定した上で必要な事柄を情報センターへ要望としてお伝えしました。

#### 活用事例

### 圃場情報の確認

地図システムでは誰の圃場かが分かり、作付作物も品種まで分かるようにしています。そのため新人職員など圃場を把握していない職員はもちろん、経験のある職員にとっても地図システムは有益です。JAきたみらいでは8つの地区があり、営農指導に携わってきた職員の担当地区が変わった時有効活用しています。

生育状況が悪い圃場を発見した時に誰の圃場が分からないことがあります。以前は耕作者を特定するために担当者に連絡して確認していましたが、現在は地図システムで耕作者などを確認して対応することで、対応速度が上がっています。

また2016年には台風により河川が氾濫し、浸水した圃場がありました。地図システムの圃場と現地状況を比較することで、どの部分が浸水しているのかが分かり、どの程度の被害が

地図システムの画面イメージ



出たのかを把握するのに有効でした。

収穫作業時には今までは担当分の地図が描かれた紙を大量に持ち歩いていましたが、今はタブレット1つで十分だと感じています。

